

平成27年度島根大学大学院  
教育学研究科入試問題（I期）  
《教育内容開発専攻 言語系教育コース》  
（英語教育分野） 専門科目

注 意

- 1 問題紙は、指示があるまで開いてはならない。
- 2 問題紙 5 枚，解答用紙 3 枚，下書き用紙 1 枚である。  
指示があつてから確認し，解答用紙と下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 解答は，解答用紙に清書すること。
- 4 問題紙は，持ち帰ること。



# 《言語系教育コース》

## (英語教育分野) 専門科目 問題

---

【A】 英語学の領域に関する下記の問いに答えなさい。

1 以下の英文の構造を樹形図または角括弧表示によって表しなさい。発音されない要素を含む場合はそれらについても図示すること。ただし、名詞句の内部構造については適宜省略してもよい。

- a. Students enjoy the classes.
- b. Voters know politicians lie.
- c. They would prefer students to do exams.

2 シェイクスピアの作品の中には、以下のような否定文が見られる。

- a. I care *not* for her. (Thurio, *Two Gentlemen of Verona*, V.iv)
- b. He heard *not* that. (Julia, *Two Gentlemen of Verona*, IV.ii)

このようなエリザベス朝時代の否定文に関して、(i) これらがどのような統語的移動操作によって派生されたか、(ii) 現代英語でなぜこれらの文が許されなくなったか、を答えなさい。必要に応じて図などを用いてもよい。

3 以下の A, B, C の各群より用語をひとつ選択してその意味を簡潔に答えなさい。解答用紙の【 】内に選択した用語の番号を記入すること。

- | A           | B          | C           |
|-------------|------------|-------------|
| 1. 拡大投射原理   | 1. メタファー   | 1. 外心的複合語   |
| 2. Aバー移動    | 2. メトニミー   | 2. 右側主要部の原則 |
| 3. 移動のコピー理論 | 3. 新情報・旧情報 | 3. 協調の原則    |
| 4. フェイズ     | 4. 文末焦点の原則 | 4. 会話の含意    |

【B】 英語教育学の領域に関する下記の問いに答えなさい。

1 以下の各用語について日本語で説明しなさい。

(1) mim-mem practice

(2) interference

(3) negotiation of meaning

(4) implicit feedback

(5) objective tests

2 次の学術論文のアブストラクトを読んで問いに答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(Martin East, 2014)

- (1) 本論文の内容をもっとも端的に述べている一文を日本語に訳しなさい。
- (2) 下線部 (a) を本文に即して具体的に説明しなさい。
- (3) 本研究で明らかになったことと、今後の課題について説明しなさい。

【C】異文化理解の領域に関する下記の問いに答えなさい。

1 次の英文を読んで問いに答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(Porter & Samovar, 1991, p.15)

- (1) 上記の文で筆者が意図していることを説明せよ。
- (2) 上記の文を参照しながら、日本文化を反映していると思われる日本語の例、英語圏の文化を反映していると思われる英語の例を、それぞれ二つずつ挙げて説明せよ（語彙・音韻・意味・形態・統語・語用のいずれかを対象とする）。
- (3) 言語と文化の関連について、あなた自身の意見を述べよ。

2 次の英文を読んで問いに答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(Kim, 2009, p.439)

- (1) 上記に述べられている“context”について説明せよ。
- (2) コミュニケーションをとる際、“context”がどのような影響を与えるか、具体例を3つ挙げよ。
- (3) Hall が提唱した“High-context” culture に属す人と、“Low-context” culture に属す人がコミュニケーションを行った際、生じうる問題について述べよ。

3 次の文を読んで問いに答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, 2002 改変)

(1) 上記の文を参照しながら、日本の英語の授業の中で実施されている ALT との team-teaching について、その利点と課題点を 3 点ずつ挙げよ (それぞれの点に理由も加える事)。